

[ジグソーメソッド授業案]

実施日	令和元年 12 月 5 日 (木)	教科・科目	特別活動・生徒会
学 年	中学 3・2 年	生徒数	中学 3 年 (23 名) 2 年 (9 名) 計 32 名
単元名	NAGANO SDGs PROJECT 「みんなの SDGs 宣言」 に参加して長野をそして世界を変えていこう	本時/ 全時間	4/6
教科書	—	授業者	長田 里恵
1 授業のねらい (本時の授業を通じて生徒に何を身に付けてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか。)			
<p>グローバル化で経済が複雑に絡み合い、イノベーションが絶えず生まれている予測不可能な VUCA (不確実で曖昧、動的で複雑) な時代を、協働して生き抜く力をつけるため、文化学園長野中学生徒会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」について、日本とその反対に位置するパラグアイの「課題」を考えさせる。そして委員会の仲間と協働して、長野からできることを考え行動、活動を起こし、その結果を NAGANO SDGs PROJECT を利用して全県に発信する。</p>			
2 メインの課題 (授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)			
地球規模 (パラグアイ) で考え、足元 (文中生徒会) から行動するには？			
3 生徒の既存知識・学習の予想 (対象とする生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)			
<p>○前時にパラグアイの課題を「自分たち日本人のように幸せに暮らせていない」と挙げていた生徒が、足元である日本の現状と照らし合わせることで、パラグアイの課題が日本にもあると気付くことができる。</p> <p>△具体的に自分たちができることを探すことは、困難だと考える。</p>			
4 期待する解答の要素 (本時の最後に生徒が上記の課題に答える時に、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準。)			
別紙 (授業研究のための見とりの観点シート)			
5 各エキスパート<対象の生徒が授業の最後に期待する要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで押さえないポイント、そのために扱う内容、活動>			
<p>A：地球の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？また、パラグアイの国民性は？</p> <p>B：地球の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？ 講師マリウス・カテルスさんは「私たちは何も無い状況から学校を造り上げた。できないことなんてない」に込められたメッセージとは？</p> <p>C：日本社会における課題は？ 日本は、本当に「豊か」で「幸せ」か？</p>			

本時の学習と前後のつながり

	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
前時	資料を読み、SDGsと結び付けながらパラグアイの課題を考える。	パラグアイのインタビュー結果を読み、SDGsの課題を立てることができる。
本時	日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するため、日本に暮らす文中生徒会として（自分事として）何ができるか考えることができる。	パラグアイの課題を、日本の課題と照らし合わせながら、自分事のように考え課題を立てることができる。
この後	<p>プレゼンの学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの意義（伝える→共感させる→感動させる→決断させる→行動させる）を知る。 ・効果的なプレゼンの6要素（簡単に→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性）を知る。 	持続可能な開発目標達成に向けた行動を、ICTを使ったプレゼンを活用して伝えられるよう、リーダーとして活動できる。

6 上記の一連の学習で目指すゴール(ねがい)

あと1ヵ月もすれば生徒会選挙が行われ、新しいリーダーが誕生し、生徒会活動も5期生にそのバトンが渡される。

今後も「持続可能な生徒会」をつなぐには、常に地球規模で考えながら、文中生徒会に活動を引き寄せ行動できることを目指したい。一つ一つの問題について他人事ではなく、日本も含む世界全体で解決・改善に向けて取り組むべき共通の課題であるという認識を持ち、グローバル市民の一人として自分にできることを考え、生活を見直し、行動できるようになってほしいと願っている。

本時の活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	<p>【導入】 各自ワークシートの「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」自分の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒各自に取り組みさせる。
15	<p>①【エキスパート活動】 エキスパートA、B、Cの課題に取り組む。</p> <p>エキスパートA：＜途上国から中進国へ＞ ○地球の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？ ○パラグアイの国民性は？</p> <p>エキスパートB：＜廃材楽器で美しい音色＞ ○地球の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？ ○講師マリウス・カテルスさんは「私たちは何もない状況から学校を造り上げた。できないことなんてない」に込められたメッセージとは？</p> <p>エキスパートC：＜社会課題解決中 MAP＞ ○日本社会における課題は？ ○日本は、本当に「豊か」で「幸せ」か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各ワークシートの答えを協働して考えさせ、括弧に答えを書かせる。 机間巡視。 わかったこと、疑問に思ったことを次のグループで伝えられるよう準備しておく必要があることを伝える。
20	<p>②【ジグソー活動】</p> <p>[活動1] エキスパート活動でわかったことを伝え合う。</p> <p>[活動2] 最初の質問「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」について班員で考え、1つ活動を決めてワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動が停滞した場合、声をかけて支援を行い、活発な議論をうながす。 他の意見をメモするよう伝える。 前時の資料＜大切な権利 TOP3＞表も参考に促す。
5	<p>③【クロストーク】 数人の委員長が各委員で決定した活動を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表は前に出て発表させ、聞き手には傾聴姿勢を心がけさせる。
5	<p>【まとめ】 最後にメインの課題について各自で考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に比べて自分がどれだけ理解が深まったかを感じるように促す。

グループの人数や組み方
<p>エキスパート班</p> <p>A: 3人×1 4人×2 B: 3人×1 4人×2 3人×2 4人×1</p> <p>ジグソー班 (各生徒会)</p> <p>執行部4人 放送3人 校風3人 保健4人 美化・奉仕4人</p> <p>評議3人 新聞・図書4人 運動3人 文実4人</p>